

平成 18 年 3 月 15 日
新開発食品専門調査会決定

アガリクスを含む製品の食品健康影響評価の進め方について

1 経緯

- (1) 平成18年2月13日付けで厚生労働省が食品安全委員会に意見を求めてきたアガリクスを含む製品に係る食品健康影響評価については、同年2月16日の食品安全委員会において、新開発食品専門調査会を中心に他の専門調査会の協力を得て審議されることとされた。
- (2) 今回評価を求められている事項は、「アガリクスを含む製品の安全性」であり、その中でも「アガリクスを含む製品についてラットを用いて行った中期多臓器試験の結果、発がんプロモーション作用」が確認されたため、これらの製品の発がん性に関する評価が主たる事項である。
- (3) このことから、平成18年3月15日の第34回新開発食品専門調査会において、本評価については、新開発食品専門調査会の専門委員だけでなく、今回の審議内容を専門とする他の専門調査会に属する専門委員等の参加が必要であるが、新開発食品専門調査会の全ての専門委員が参加すると人数が多くなることから、効率的な調査審議を行うため、以下のとおりワーキンググループを設定することで、了承を得た。

2 運営

(1) ワーキンググループ(WG)の設置

新開発食品専門調査会の専門委員を中心に今回の審議内容を専門とする他の専門調査会に属する専門委員の参加を得て、新開発食品専門調査会の下にワーキンググループ(WG)を設置する。

(2) ワーキンググループ(WG)の構成

WGは、新開発食品専門調査会及び他の専門調査会に属する専門委員若干名により構成する。

WGは、委員の互選により座長をおき、座長が議事を司る。

また、座長が必要であると認めた場合には、専門調査会委員以外の有識者の参加を求める。

(3) 評価結果の取り扱い

WGの評価結果は新開発食品専門調査会の了解を得て、同専門調査会の評価結果とする。また、WGの検討状況は、適宜、新開発食品専門調査会に報告する。

アガリクスを含む製品の食品健康影響評価のための
ワーキンググループ専門委員名簿(案)

(50 音順)

- 及川 眞一 (日本医科大学内科学内分泌代謝部門教授)
- 上野川 修一 (日本大学生物資源科学部教授)
- 合田 幸広 (国立医薬品食品衛生研究所生薬部長)
- 佐竹 元吉 (お茶の水女子大学生活環境研究センター客員教授)
- 立松 正衛 (愛知県がんセンター研究所副所長)
- 福島 昭治 (中央労働災害防止協会日本バイオアッセイ研究センター所長)
- 本間 正充 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター変異遺伝部
第一室長)
- 松井 輝明 (日本大学医学部講師)
- 三森 国敏 (東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授)
- 山浦 由郎 (長野女子短期大学客員教授)
- 山添 康 (東北大学大学院薬学研究科教授)
-